

## ニューヨークのユダヤ人

現地で目にしたユダヤ人社会。伝統を固く守り続ける一方で、人種や宗教を超えて開かれた一面も。

日外協 業務部長 矢野文之

### 成人式のお祝いの儀式に参列

アメリカ合衆国は飢饉<sup>きん</sup>や迫害にあって祖国を追われた移民が中心となってつくられた国だ。彼らの多くは祖国への複雑な感情を抱いている。しかしユダヤ人は違う。「捕囚」と「離散」という2つの出来事(ディアスポラ)により土地を喪失し、民族が離散してもなお、およそ3000年にわたり世界各地を転々と居住しながら伝統を守ってきた。

彼らにとってアメリカも流浪の地である。戦後に建国されたイスラエルこそ自分たちの祖国の地であると考える。

私と妻は昨年12月に久しぶりにニューヨークを訪れた。目的は駐在の時に近隣で親しくしていたユダヤ人一家の「バーミツバ」に招待されたからだ。男の子は13歳で「バーミツバ」、女の子は12歳で「バトミツバ」というユダヤ人の成人式が行われる。一家の次男である「ジョジョ君」が13歳になるので、そのお祝いの儀式に参列することになったのだ。

### ヘブライ語で書かれた教えを読む

式典はユダヤ人の安息日である土曜日に行われる。午前10時にユダヤ教の教会である「シナゴーク」に集合。初めて内部に入った。他の宗教的建築物に比べて質素な印象だ。偶像崇拜が禁じられているので、人間や動物の形をした像や絵や華美なキラキラしたものがないからだろう。

200人くらいの老若男女が参列している。さすがに宗教的行事とあって普段はカジュアルな服装のアメリカ人もフォーマルな格好をしている。男性のほとんどが「キッパ」という小さな帽子を頭にちょこんと乗せている。壇上には男の子が2人いる。そのうちの1人がジョジョ君である。



ジョジョ君と両親

ラビ(ユダヤ教の聖職者)の説教のあと祭壇が開く。祭壇の中にあるのはユダヤ教の聖書「トーラー」である。「トーラー」は旧約聖書にある「モーセ五書」などヘブライ語で書かれた教えで、それが幅60センチもあろう巨大な巻物状になっている。そのうちの1冊をラビが演台の上に置く。バーミツバの最も重要な儀式は、このヘブライ語で書かれた教えをきちんと読むことだ。ラビが指定した箇所をジョジョ君は緊張した面持ちで読み上げる。子どもたちはこのためにラビや親の指導によりヘブライ語を一生懸命に勉強するそう。ユダヤ人の多くが語学に長けているのも、こうした子どものころからのバイリンガル養成が功を奏しているのではないかと。